

Japan International Cooperation in Ophthalmology

Annual Report

日本眼科国際医療協力会議

年次報告書 2013



日本眼科国際医療協力会議

理事長 藤島 浩



ご挨拶

日本眼科国際協力会議（JICO）は、2009年に発足し、各国で活動をしている9つの日本の眼科団体を支援するため、また、国内の白内障手術の若手医師教育の活動を鋭意行っています。失明予防および治療は日本でも重要な眼科医のテーマですが、発展途上国では貧困や医療システムの不備により、国民が十分な眼科医療や診察を受けられない国が数多く存在しております。このようなアジア、アフリカの国々で、視力を失っている方々に、適切な診療、治療機器、手術、そして教育を提供することにより、一人でも多くの方々に視力を回復していただきたいと考えております。既に、日本眼科医療機器協会の協力のもとに、ホームページ上に中古の医療機器情報を掲載し、各団体からの要望にマッチした医療機器を現場に供給するシステムが動いており、その中には中古品に係らず新品を提供頂く場合もあり、国際協力にご理解がある会社や医療法人も増えてきました。今年度は眼科からレーザー装置や白内障超音波乳化吸引装置、手術顕微鏡にいたるまで、8機器の寄贈をいただき、ここに改めて感謝の意を伝えます。また、海外からの眼科医療研修生の受け入れ、およびその国内での実習援助を開始しています。さらに、一昨年からAOCAを中心に国内での白内障技術講習を始めました。これには、眼科医のみならず獣医師も参加し、技術を磨いています。そこで使われている机太郎という白内障手術練習器具は国内外で好評を得ている技術修練器具であり、海外での教育は勿論、日本の白内障手術教育現場にも取り入れられ始めた、非常に優秀な器具です。発足当初から始めた眼科学会などでのインストラクションコースについては、医師のみ

ならず看護師、医療機器関係者など、様々な方の医療援助に関する発表を行って、国際協力の今後の課題や抱負が明らかになってきています。また、2014年4月のWorld Ocular Congress（WOC）にてJICO海外医療協力について小生が報告することになりました。4日午後のセッションですので、参加している方は是非聞きに来てください。このWOCを介して、世界の援助団体と連絡が取れて、より活発な海外援助活動が出来ることを期待しています。

さらに素晴らしい表彰をNGOアジア失明予防の会代表の服部匡志先生が受けられました。これは10年以上に渡る、長年のベトナムでの活動に読売国際協力賞を授与され、12月12日に東京で盛大なパーティーが行われました。勿論、読売新聞社主や福田元総理大臣も出席され、非常に意味のある表彰でした。今後益々の活躍が期待されます。

国際医療援助を行うにあたり3つの問題とお願いがあります。1つは資金であり、2つ目は人的パワーであり、3つ目は時間的な問題です。資金はご理解いただける方の協力が不可欠であり、人的パワーには熱意と新しい力が必要です。そして時間的な問題としては、こういった行為への国内での協力が無いとなしえませんが、以上の内容を基に、実践的な活動について研究し、その研究成果を効果的な運用等に役立てることも目的としています。その為には、皆様の温かい援助と、開発途上国で目が見えなくて苦しんでいる人への思いやりを期待しております。どうぞ、今後ともJICOを宜しくお願いします。

【役員紹介】（敬称略）

理事長 藤島 浩
副理事長 飽浦淳介、服部匡志
監 事 塩田 洋
参 与 吉田統彦

【加入団体】（敬称略・50音順）

団体名 特定非営利活動法人 アジア眼科医療協力会 代表者：飽浦淳介
Association for Ophthalmic Cooperation in Asia（略称：AOCA）

▶ URL: <http://www.aoca.jp/>

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会 代表者：服部匡志
Asia Prevention of Blindness Association（略称：APBA）

▶ URL: <http://www.asia-assist.or.jp/>

アフリカ眼科医療を支援する会 代表者：内藤 毅
Association for Ophthalmic Support in Africa（略称：AOSA）

▶ URL: <http://aosa-eye.org/>

特定非営利活動法人 南太平洋眼科医療協力会 代表者：小沢忠彦

▶ URL: <http://www.kozawa-ganka.or.jp/volunteer/group.html>

タンザニア眼科支援チーム 代表者：山崎 俊
Japan Tanzania Eye Medical Support Team（略称：JTEMST）

▶ URL: <http://www.jtemst.com/>

ヒマラヤ眼科医療を支援する会 代表者：松山加耶子

▶ URL: <http://earthkaya.web.fc2.com/index.html>

特定非営利活動法人 ファイトフォービジョン 代表者：藤島 浩
Fight for vision（略称：FFV）

▶ URL: <http://www.ffv.jp/#>

特定非営利活動法人 Project Operation Sight for All（略称：POSA）代表者：倉富彰秀

▶ URL: <http://www.posaoffice.net/>

ミャンマー眼科医療活動（医療法人 藤田眼科内）代表者：藤田善史

▶ URL: <http://www.fujitaec.or.jp/myanmar/index.html>

会計報告

日本眼科国際医療協力会議 財務諸表

自：2013年1月1日 至：2013年12月31日 第6期

収支計算書

科目	金額
I 経常収支の部	
1 寄付・助成金収入	
寄付・助成金収入	606,767
2 会費収入	
会費収入	450,000
3 広告収入	
広告収入	170,000
4 雑収入	
受取利息	105
雑収入	70,000
経常収入合計	1,296,872
II 経常支出の部	
会議費	112,520
通信費	32,733
消耗品費	1,000
印刷費	279,650
地代家賃	0
ホームページ費	18,900
支払手数料	1,160
旅費交通費	0
事務委託費	243,000
租税公課	0
経常支出合計	688,963
経常収支差額	607,909
当期経常増減額	607,909
当期一般正味財産増減額	607,909
一般正味財産期首残高	478,505
一般正味財産期末残高	1,086,414

貸借対照表

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	58,137
普通預金	1,028,277
郵便預金	0
流動資産合計	1,086,414
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産の部合計	1,086,414
II 負債の部	
1 流動負債	
流動負債合計	0
負債の部合計	0
III 正味財産の部	
一般正味財産	1,086,414
正味財産合計	1,086,414
負債及び正味財産合計	1,086,414

財産目録

科目・摘要	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	58,137
普通預金 三井住友銀行高田馬場支店	1,028,277
普通預金 ゆうちょ銀行	0
未収入金	0
2 固定資産	0
資産の部合計	1,086,414
II 負債の部	
1 流動負債	0
負債合計	0
正味財産	1,086,414

JICO 今後の活動について

- 1：日本眼科医療機器協会の協力のもとに、ホームページ上に中古の医療機器情報が掲載されています。また機器が寄贈された場合に、その後の搬送から梱包までは日本眼科医療機器協会と機器の会社が援助してくれています。今後は中古品に限らず、新品も国内で買って、JICO が援助する方式にしたいと思っています。順次相談のうえ、より良い方向で完成させていきたいと考えています。
- 2：海外での眼科医療現状を目の当たりに見る事は若い研修生にとっては非常に重要だと思います。一方、海外からの眼科医療研修生の受け入れも、その国の眼科医療の独立性を図るためにも大事な仕事です。今後は眼科学会や眼科医会のみならず、医療機器メーカーや製薬会社とも相談してこういった試みを実行出来るような基金をはじめとしたシステムを構築したいと思っています。
- 3：ようやく定期的に眼科の学会でシンポジウムなどが出来るようになりました。今後はさらに医師のみならず看護師、医療機器関係者など、様々な方の医療援助に関する関心を持ってもらえるように、色んな学会でシンポジウムなどの発表を行って、国際協力へのマンパワーを充実させていきたいと思っています。
- 4：海外協力を行っている手術技術を若い日本の先生のために白内障手術講習会を JICO も協力しています。今後はさらに充実した研修が出来るように、各団体とも連絡を取って行きたいと思っています。
- 5：活動の中心は事務局になると思いますが、資金の運用などをスムーズにしていきたいと思っています。

冒頭にも申しましたように、国際医療援助を行うにあたり 3つの問題があります。資金、人的パワー、時間という問題は、こういった活動の一番の問題になります。特に資金が無いと何も行動できません。JICO は実践的な活動について研究し、その研究成果を効果的な運用等に役立て、結果として活動をサポートすることをメインに考えています。皆様の温かい援助と、御協力を期待しております。

今後の活動スケジュール

JICO 2014 年 各団体年間スケジュール 団体名 50 音順

No.	団体名	代表者名 (敬称略)	年間スケジュール (予定)	
1	アジア眼科医療協会	飽浦 淳介	1/25	アイキャンプ報告会 西宮市男女共同参画センター
			3/15	西宮市バザーに出品
			3/23	丸一日ウエットラボセミナー in 大阪 Spring 大阪エイエムオー
			6/7	AOCA 総会 上甲子園公民館 (予定)
			6/29	第4回実践的ウエットラボで学ぶ白内障手術セミナー (予定) 東京アルコン
			10月～11月	手術セミナー (予定)
			12/27～12/31	インド・ダラムサラアイキャンプ
			12月	ネパールの病院が主催するネパールのアイキャンプへ医師派遣
2	アジア失明予防の会	服部 匡志	1/26～2/5、3/8～3/18、4/13～4/21、5/1～5/13 6～8月共に2週間弱を予定	Vietnam Hanoi にて手術・手術指導
3	アフリカ眼科医療を支援する会	内藤 毅	2/5～2/13、3月	ネパールへの医療活動
			7/17～7/26	モザンビークでアイキャンプを計画
4	キリバス共和国眼科医療支援会	小沢 忠彦	9月	キリバス共和国 首都タラワにて2週間 白内障手術
5	日本タンザニア眼科支援チーム	山崎 俊	9/13～9/21	タンザニアでの支援活動
6	ヒマラヤ眼科医療を支援する会	松山加耶子	2月中旬、5月初旬	ネパールアイキャンプ
7	ファイトフォービジョン	藤島 浩	年度内	カンボジア眼科手術施設拡張および手術支援
				ベトナム眼科手術支援
				コロンビア眼科手術機器寄贈支援
				インドネシア眼科手術施設拡張および手術支援
				白内障手術講習会支援
8	POSA	倉富 彰秀	12/20～12/27	バングラデシュ コナバリ村での眼科医療援助 (白内障手術)
9	ミャンマー眼科医療活動	藤田 善史	2/6～2/11	第24回ミャンマー眼科医療活動

日本眼科国際協力会議

会員募集

医療に携わる皆さまへ

眼科に限らず、他診療科との協力も得ながら国際医療活動に興味があり、実際に行動にうつせる方、うつしたい方募集しています。

詳しくは以下までお問い合わせください。

お問い合わせ

日本眼科国際医療協力会議 事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-4-7
(スタッフルームタケムラ (有) 内)
URL : <http://www.jico-jp.org>
E-mail : info@jico-jp.org
TEL : 03-5287-3801
FAX : 03-5287-3802

各加入団体紹介及び活動報告

NPO 法人 アジア眼科医療協力会 Association for Ophthalmic Cooperation in Asia (AOCA)

代表者：鮑浦 淳介

AOCAは、1972年からネパール、インドを中心として、アジアの貧困地域に眼科医療支援を行っているNPO法人です。アイキャンプ活動や、手術教育、人材養成、技術指導、医療機器の寄贈などを行っています。

アイキャンプは、医療施設の無い地方に眼科医療チームを派遣して行う活動です。日本からの派遣チームは、ネパールで37回（67か所）、インドで14回、総計1万人以上の手術を行い、白内障による失明者を救いました。人材養成面では、眼科医、器械修理技師、看護師など、延べ31人のネパール人に日本やインドでの研修支援をしてきました。

また1988年から18年間、24時間テレビと協働し、「ナラヤニアイケアプロジェクト」を展開、ネパール南部にある2つの病院を支援してきました。日本人医師やスタッフの長期派遣を行い、現在は1つの病院は自立し、もう1つの病院も自立に向けた努力をしています。両病院合わせて年間約3万件の白内障手術が行われ、失明防止の拠点となっています。

2007年から3年間、政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）と連携し、ネパール全土を対象に「眼科医療システム強化プロジェクト」を実施しました。眼科医、眼科助手、ヘルスポストスタッフ（医療師）への教育を通して、草の根の人々に眼科医療がいきわたるシステム構築を進めました。（活動の詳細はホームページをご覧ください。URL <http://www.aoca.jp/>）

最近、年末にインド・ダラムサラでアイキャンプを行うと共に、我々が開発した手術練習用模擬眼を使った手術教育にも力を入れ、日本や海外の多くの場所でウエットラボ講習会を行っています。

また、来期からはネパール人の主催するアイキャンプにAOCAとして参加し、アイキャンプを行っていく予定です。AOCAの活動にご理解、ご協力いただいた個人・団体・各企業の皆様に深く感謝致します。



1. 2013年活動報告（年次報告）

■インド ダラムサラアイキャンプ

2013年12月27日～31日インド北西部の山岳地帯ダラムサラで今年も14回目のアイキャンプを施行した。浅野宏規を隊長とし、柏瀬光寿、池田欣史ら5名の眼科医を含む8名の医療チームを、チベット亡命政府が管轄するDelek病院に派遣した。190名の外来診療を行い、進化した白内障患者67名に無償の手術を行った。

手術は3日間、ベッド2列で水晶体囊外摘出術（ECCE）を施行し、全員に人工眼内レンズを挿入した。カウンターパートDelek病院のDawa院長から、毎日の手術が早く終わった点、チーム全体が少人数だった点が特に良かったという言葉いただいた。

2000年に始まった当該活動は、現地で大変高い評価を得ている。毎年のアイキャンプ活動終了時に現地関係者で行うミーティングでは、今回も継続を熱望された。

今回の活動を通して、インド人眼科医とチベット難民コミュニティ間で親密な交流が行われた。



■ネパール アイキャンプ

2013年12月23日～26日ネパールのルンビニ郡で行われたEARTHのアイキャンプに飽浦淳介・浦木健彦(北海道大学)・清水啓史(北海道大学)3名の医師を派遣した。

■手術教育・人材養成活動

AOCAとJapan International Cooperation Agency(JICA)との3年間の協働プロジェクト「ネパール眼科医療強化プロジェクト」の中で生まれた手術練習用モデル眼「KITARO」や豚眼を使った手術教育人材養成活動を以下に表を使って示す。

諸外国での手術教育活動

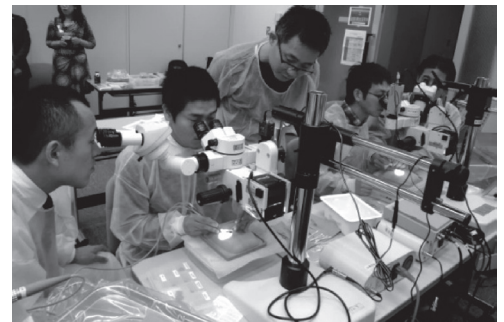
日時	内容	場所		主催
2013年12月	超音波白内障手術教育	ネパールトリブバン大学	1日	AOCA/NNJS

日本国内での手術教育活動

日時	内容	コース名	期間	主催又は運営
2013年 3月	眼科医や獣医を対象とした白内障手術(PEA・ECCE)合併症処理 小瞳孔処理 IOL縫着など	丸一日ウエットラボトレーニング in 大阪 2013 (大阪 エイエムオー)	1日	主催:AOCA 協力:エイエムオー ジャパン(株)
6月	眼科医や獣医を対象とした白内障手術(PEA・ECCE)合併症処理 小瞳孔処理 IOL縫着など	第3回実践的ウエットラボで学ぶ白内障手術セミナー(東京 アルコン)	1日	主催:JICO/AOCA 協力:日本アルコン(株)
7月	学生や前期研修医に対する白内障手術体験セミナーへ指導医師を派遣	第2回眼科サマーキャンプ2013(千葉 かずさアカデミアパーク)	1日	日本眼科学会/日本眼科医会
11月	白内障手術(PEA・ECCE)合併症処理 小瞳孔処理 IOL縫着など	丸一日ウエットラボトレーニング in 大阪 2013 Autumn(大阪 エイエムオー)	1日	主催:AOCA 協力:エイエムオー ジャパン(株)

AOCA/JICO 手術トレーニングルーム(西宮)での教育活動

日時	内容	所属	コース
2013年 12月	超音波白内障手術	北海道大学眼科医2名 関西医科大学眼科医1名	1日



■ネパール支援活動

12月、飽浦理事長がトリブバン大学を訪問し、AOCAより机太郎ウエットラボ&ドライラボキット・白内障手術の教科書を寄贈した。またケディア病院、ネパールアイホスピタル、ティルガンガ病院を視察、指導した。

NPO 法人 アジア失明予防の会

Asia Prevention of Blindness Association (APBA)

代表者：服部 匡志

APBA の紹介

私たちアジア失明予防の会はアジア全体において失明の危機に瀕している患者を1人でも多く救えるよう、医療機器の援助、医師の派遣、医師の教育指導、治療の支援などを目的として平成15年10月1日に設立され、平成17年6月21日に京都府から認可され、特定非営利活動法人として活動しています。平成16年より、『Save The Vision』プロジェクトを開始し、ハノイやホーチミンで手術や教育指導するだけでなく、より貧しい方々のためにベトナムの貧困地方に行き、ボランティア手術を実施。

APBA の 2012 年～ 2013 年の活動報告

ベトナムにおいて、医療技術指導のうち、網膜硝子体手術は、ハノイ国立眼科病院を主に、ハイフォン眼科病院、タインホア眼科病院（今年度より）らの若手医師の育成を行った。超音波白内障手術においては、ハノイの病院ではほぼ99%は超音波白内障手術で行われており、ベトナムの地方病院の眼科医師らへの技術指導および教育を行った。また、今年度の治療支援事業では下記の表にあるように、ベトナムの各地方に医療資機材を持ち込み、無償の網膜硝子体手術および白内障手術を行い、約1000名の患者さんに治療を行った。地方の人民委員会や医療保健局、プロジェクトを行う病院、および現地の眼科医師などと連携が重要で、また私たちも日本のナショナルフラッグを背負って行っているため、手術の品質には力を入れている。中国のボランティア団体や他国の団体がベトナムのある地方でチャリティーをおこなったが、眼内炎が頻発し、ベトナム保健省で大きな問題となっている。地方で手術を行う場合にも医師免許の確認など、情勢がきびしくなっており、海外にて日本人医師が白内障手術の研修を行うことはベトナムにおいては難しくなっているのが実情である。私達のプロジェクトに於いては、手術後の眼内炎の発生防止に最大限の努力を払っているために、今年度も発生はなかった。また手術の種類にかかわらず、安全性を考え救護麻酔で行っている。物資支援事業では、ハノイ国立眼科病院ではこれまで自国の医師が手が付けられなかった未熟児網膜症の手術が行えるように、資機材の支援を行い、Minh 医師（私の教え子の一人）が5割の割合で手術を成功させられるように成長した。また、ベトナム保健省の要請にて、タインホア眼科病院で網膜硝子体手術の医療指導の要請があり、眼内内視鏡を1台寄贈し、若手医師の手術指導に使用している。また、地方病院に手術用の顕微鏡2台、白内障手術器具3セットなどの贈を行った。とても小さな草の根の支援であるが、寄贈先の病院の医療サービスは着実に向上している。また、ラオスにおいては栗原医師が、毎年2回ほどラオス国立眼科病院を訪問し、



無償手術をおこなっている。さらに、今年度はミャンマー政府（特に保健省）から、ミャンマー全土において、失明者軽減のために地方の眼科医療サービスの向上、地方でのチャリティー手術の実施や、ヤンゴン国立眼科病院の強化、特に網膜硝子体手術の教育指導について、是非とも協力してほしい要請があり、ミャンマーに8・12月に行ってきた。超音波白内障手術は徳島の藤田医師の指導により、十数名超音波白内障手術ができる医師が育っており、これらの医師がミャンマーの地方の眼科医療サービス向上のポイントとなるために、次年度には、彼らとチームを組み、地方のチャリティー手術を実施したいと考えている。また、私たちの団体以外に、日本では藤田先生のグループ、ネパール、韓国、オーストラリアの団体がヤンゴン国立病院でチャリティーの白内障実施していた。8月の訪問時にニデック社の白内障・網膜硝子体機器のCV-24000や冷凍凝固機器（クライオマスター）を寄贈し、保健省にてセレモニーが行われた。（世界こども財団と共同）また、12月の訪問時に眼内内視鏡を1台寄贈し、これまで手術ができなかった方々へのヤンゴンでの網膜硝子体手術の医療サービスの発展が期待される。

2013年度活動実績

1. ハノイ市における網膜硝子体手術を主とした眼科医療技術の指導・教育

平成24年10月から平成24年8月（1、7月を除く毎月）

ハノイ国立眼科病院、テレコム病院、ハノイ市立病院、フレンドシップ病院のいずれかの施設

2. ベトナム地方都市およびラオスにて貧しい人々に対して無償の白内障手術などの治療支援活動

年	月	場所	手術数	派遣医師・看護師・ボランティア参加者など
2012	10月	ニントアン省 眼科センター	122人	服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 Thiem さん
	11月	ティンクアン省の総合病院	38人	服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 Thiem さん 西川啓子さん
	12月	クアンニン省のハイハ地方の総合病院、フエ眼科病院	114人	服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 Thiem さん 池田医師 栗原医師 寺井医師 小嶋看護師 岡本直子さん、伊藤天大さん
2013	2月	ハノイ国立眼科病院にて眼科医療技術の教育・指導		
	3月	タインホア省のタインタック地方病院	87人	服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 DucGa 医師 山下医師 聖マリアンナ医科大学の大塚さん、吉田さん ハノイ在住の横山さん、幡さん
	4月	ビンフック省（南部）の総合病院	98人	服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 DucGa 医師 Thiem さん
	5月	フエ眼科病院	40人	園田医師、服部医師 Hung 医師 Duc 医師 Quang 医師 DucGa 医師 Thiem さん 寺井医師、中塚看護師
	5月	カマウ省の総合病院	172人	
	5月	ラオス国立眼科病院	20人	栗原医師
	6月	クアンニン省のイエンフン地方総合病院	94人	服部医師 Hung 医師 DucGa 医師 Duc 医師 Quang 医師 Thiem さん、山下医師、中塚仁美子さん
	7月	日本：服部医師が外務省朝倉公館にて、岸田外務大臣より表彰状を授与される		
	8月	クアンニン省 ドンチオ地方総合病院	112人	服部医師 寺井医師 Hung 医師 DucGa 医師 Duc 医師 Quang 医師 Thiem さん 栗原久美子医師、寺井典子医師
		バックカン省 総合病院	101人	服部医師 栗原医師、小川看護師、聖マリアンナ医科大学医 学生1名、山口大学医学生3名、ORT 幡さん

こうした活動が継続できるのも皆様方からの温かいご支援のお陰です。心からお礼申し上げます。

プロジェクトマネージャー

服部 匡志

アフリカ眼科医療を支援する会

Association for Ophthalmic Support in Africa (AOSA)

<http://aosa-eye.org>



代表：内藤 毅（徳島大学）

発足の経緯

- ・2006年8月、モザンビーク共和国（以下モザンビーク）駐日大使と面談し、医療協力を要請される。人口約2千万人のモザンビークには、眼科医が13人しかいないことを知る。
- ・2007年8月、モザンビークを視察し、活動計画を立案した。
- ・2008年4月、アフリカ眼科医療を支援する会 Association for Ophthalmic Support in Africa (AOSA) を設立した。

活動目的

- ・モザンビークにおける眼科医療水準の向上
- ・白内障による失明患者の治療

活動内容

- ・2008年6月、モザンビーク保健省の要請によりモザンビーク北部の僻地(Cabo Delgado, Mueda)で、第1回目のアイキャンプを実施し、47人(48眼)の白内障手術を行った。2009年8月、Muedaで、第2回アイキャンプを行い、58人の白内障手術をおこなった。
- ・2010年9月の第3回からはCabo Delgado州Pembaで行い、第3回アイキャンプでは113人(117眼)、2011年8月の第4回では153人(155眼)、2012年10月の第5回では208人、2013年7月の第6回アイキャンプでは173人の白内障手術を行った。



集まった患者さん



現地眼科医の白内障手術技術指導

2013年 AOSA 活動報告

- ・2013年7月20日～25日、モザンビーク北部のCabo Delgado州、Pembaに滞在して第6回アイキャンプを行った。
- ・医師2名、看護師1名、視能訓練士2名、ボランティア1名、現地コーディネーター1名、青年海外協力隊員3名の合計10名の日本人スタッフとモザンビーク人眼科医2名、眼科助手1名が加わった。
- ・患者診察および白内障手術を行った。
- ・手術患者数は合計173人で、172人(99%)の患者さんに眼内レンズを挿入することが出来た。また、術後経過も良好で、術後眼内炎などの重篤な合併症は認められていない。
- ・モザンビーク人眼科医2名はAOSAが招待し、旅費等を支給した。また、白内障手術の技術指導を行い、相互理解を深めた。



アイキャンプ終了時の記念写真

続けるということ

AOSA ツカザキ病院眼科 長澤 利彦

AOSAの活動も6回を迎えました。私自身が参加させていただいたのは今回で4回目になります。2013年は、7月18日に日本を出発し7月27日に帰国するプランでした。徳島大学を離れた今となってもなお、師匠と勝手に慕っている内藤

先生にお共し、モザンビークでのプロジェクトに参加することが私にとって毎年楽しみになっています。日常の診療に支障をきたすことなく10日間も病院を留守にする事が可能なのは理解のあるツカザキ病院のおかげなのですが、今回はさらにツカザキ病院から視能訓練士である石飛君が参加してくれました。なにせ、現地に到着するのに1日半はかかります。ただでさえタイトな日程に大多数の患者さんの手術が必要なのですが、航空機発着のトラブルがあり、到着に1日遅れました。患者さんは現地のコーディネイト（日本でいうところの視能訓練士に近い職業）のセルジオ氏が1年をかけて集めてくれています。モザンビークでは翼状片、眼球内容除去、眼瞼の手術は彼らの職種が手術しています。成熟白内障が多くを占めるので当然といえば当然なのですが、セレクションにまず間違いはありません。現地到着直後にホテルにチェックインするとすぐに病院に向かいます。厳しい内藤師匠には時差ボケがどうこうといった泣き言は通用しません。病院では200名を超す患者さんがすでに我々を待っていました。診察で手術患者さんを最終選択し、すぐさま眼内レンズ計算にはいります。徳島・新潟のライオンズクラブのご援助により第3回目のアイキャンプから眼内レンズ計算ができるようになりました。検査にめどがつくと手術場の準備にはいります。ベッドの位置・椅子・備品道具の場所をきめ、味の素社製（驚くほど安い値段です）の手術顕微鏡を自分達で組み立てます。ホテルにもどる頃には深夜12時になっていました。それでも翌日から手術です。手術は朝から夜まで行います。毎年なのですが、初日の手術時間は12時間を超えました。内藤先生と2人で76眼の手術を行いました。翌日もその翌日も診察と手術が続きます。3日間で合計173眼の手術を施行できました。また、例年このアイキャンプにはモザンビーク人の眼科医も参加してもらっています。少ない時間ではありますが手術指導も行っています。今年も2人の眼科医が参加してくれましたが、技術的にはまだまだといったところが現状です。このキャンプはタフな仕事ですが、楽しみもあります。ほぼ病院に缶詰で、ホテルでベッドに着く頃には毎日日付は変わっているのですが、ホテルの前には美しいビーチがあります。どんなに疲れていても朝は毎日5時半には起きてビーチで泳ぎます。また、夜に仲間たちと仕事を成し遂げた後に海辺で夕食をとる爽快感と満足感は筆舌に語りがたいものがあります。最後の診察を終えて荷造りをすると首都マプトに向かいます。毎年、マプトでは日本大使館の方々にその年のプロジェクト結果と今後の計画をプレゼンテーションしています。

到着までの道のりでトラブルに遭遇してしまったとはいえ、到着後からは大きな問題はおきませんでした。手術件数は僻地からの患者さんが交通事情により来院できなかったため昨年よりは少ないものの、過去2番目に多い症例数でした。1つ今回の活動で残念なことは小児の外傷性白内障の手術を施行しましたが、白内障を取り除くとその直下に剥離した網膜を認めた症例が1例あったことです。日本の環境であれば手術適応の判断に誤りがなかったと思いますが、その判断が不十分であったことが悔やまれます。

AOSAの第1回アイキャンプに参加させてもらった時に内藤先生から「長澤、1、2回海外で活動したからといってもそれじゃあダメや。最低でも10年は続けんとアカン。」と教えられた事を思い出します。確かに初回は現地のスタッフの方々も一見冷めた印象も受けました。しかし今では少しずつではありますが信頼関係を築けているように感じます。その他にも、まだ10回を数えたわけではないのですが初回では見えなかったものが徐々に増えてきたような気がします。私自身の中でも海外医療活動に対するイメージが当初の憧れや好奇心から使命感のようなものになってきたようです。確かにアイキャンプはボランティア活動ではあるのですが、逆に我々が患者さん達に助けられている面も多くあります。術後の患者さんの笑顔が我々の活動力になっていますが、それは日常の多忙な診療の中で忘れがちになってしまうあの医師を志した青臭い10代の気持ちにもどしてくれ、そして日本人としての誇りを何より実感できる時間と場所でもあります。どうも、まだまだモザンビークに行くことになりそうだと感じる今日この頃です。



術後の患者さんを診察する長澤



患者さんの入院病棟にあたるテント



手術翌日に視力が回復し喜ぶ患者さん

NPO 法人 南太平洋眼科医療協力会

代表者：小沢 忠彦

◆現在までの経緯

キリバス共和国は、南太平洋ほぼ赤道直下に散在する 33 の環礁からなる国で、地球温暖化に伴い水没の危機にあり、また、世界で最も早く日付が変わることで知られている。首都タラワには総合病院があるが、眼科の常勤医師が不在で、大学が無いとため、自国で医師を養成することが出来ない。不定期ではあるが、他国の眼科医が診療活動を行っている状況である。この様なキリバス共和国の実情を知り、正式にキリバス共和国より医療支援の要請を受けて、2008 年に第 1 回目の眼科医療支援が実現した。以降、年 1 回キリバス本土及び離島に訪れ、外来診療と手術の医療支援活動を行っている。支援活動当初は、医療法人 小沢眼科内科病院内の任意団体として手術機器及び器材等を寄贈し、日本とほぼ同等の医療提供を目指して活動していたが、2011 年 2 月に NPO 法人を設立し、活動を展開している。

なお 2014 年の活動においては、9 月に手術用顕微鏡、超音波白内障装置を寄贈予定である。

◆活動目的

南太平洋諸国国民に対して、眼科医療に関する事業を行い、保健・医療または福祉の増進及び国際協力に寄与すること

◆主な活動内容

- 1) 眼科診療・手術事業
- 2) 眼科診療技術の教育・訓練事業
- 3) 眼鏡の無償提供事業（日本で不要となった眼鏡を集め提供）



キリバスでの手術風景



術後患者との記念写真

2013年 活動報告

全体会議を1回行いました。(2013.5.6)

現地での活動をより良くするため、外務省へ出向き働きがけをいたしました。

小沢眼科内科病院の本院・分院において、また病院ホームページ等で不要となった眼鏡の寄付を募り、多数の眼鏡を頂戴いたしました。本活動において、有用に使わせていただきます。



現地スタッフとの手術風景



2010. チーム小沢

NPO 法人 タンザニア眼科支援チーム

Japan Tanzania Eye Medical Support Team

代表者：山崎 俊（愛知県、山崎眼科院長）

私たち「タンザニア眼科支援チーム」は2007年よりアフリカ、タンザニア連合共和国の国立ムヒンビリ大学病院で眼科支援活動を行っております。

活動開始の契機は、徳島県藤田眼科の藤田善史先生を中心として行われている「ミャンマー眼科支援活動」に参加していた山崎が、2006年に当時の駐日タンザニア大使であるムタンゴ氏と面会し「同じような活動がタンザニアでも出来ないか？」と相談を受けたことです。

タンザニアはアフリカ東部、赤道の南に位置し、面積約95万km²（日本の約2.5倍）人口約4300万人（日本の約半分）アフリカ最高峰のキリマンジャロ山とそのふもとで栽培されるコーヒー、そしてライオン、ゾウ、シマウマなどの野生動物が有名です。眼科医数はわずか30人程度、眼科医療は資金不足などから大学病院でも十分な治療が行えない状況で、適切な支援が必要と考えられます。

チームのメンバーは、岐阜県ほりお眼科院長の堀尾直市先生、愛知県小嶋病院眼科の小嶋義久先生らを中心とした日本人眼科医と眼科医療関係者で構成されています。現地ではタンザニア在住で日本大使館に勤務している横江美貴看護師が、我々の活動をコーディネートしてくれています。

更にはタンザニア保健省、外務省、駐日タンザニア大使館、在タンザニア日本大使館、そして2005年の愛知万博でフレンドシップ提携を交わした愛知県小牧市と、小牧ライオンズクラブをはじめとする多くの皆様にご協力をいただいております。

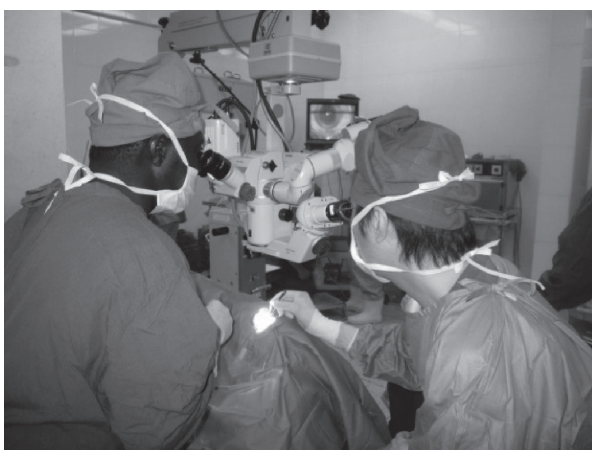
具体的な活動内容は以下の3項目で、ミャンマー眼科支援活動をお手本にしています。

- 1) 年1回1週間程度現地を訪問して超音波白内障手術の技術指導を中心とした支援活動を行う。
- 2) 現地眼科医らと連絡を取りながら不足している機器、薬剤などを出来る範囲で提供し、これらの管理指導を行う。
- 3) タンザニア眼科医を日本に招いて研修をしてもらう。

活動回数を重ねるごとに現地眼科関係者との信頼関係が深くなることを実感しますが、同時に生活や医療の環境が異なる者たちが相互理解をする難しさも感じています。

私たちはタンザニアの眼科関係者との交流を通じて、現地の眼科医療の発展を支援すると共に、この経験を通して我々自身が成長していくことも重要であると考えております。

NPO 法人タンザニア眼科支援チーム、ホームページ <http://www.jtemst.com/>



堀尾先生による手術指導（2009）



眼科機器寄贈式典（2008）

2013 年度活動報告

タンザニア眼科支援チームは、2013年9月15日から21日まで、金沢医科大学眼科学教室の佐々木洋教授、広島県木村眼科内科病院の横山光伸先生、愛知県小嶋病院眼科部長の小嶋義久先生、山崎らを中心として第9回となる現地ムヒンビリ大学病院眼科での支援活動を行いました。具体的な内容として以下の4項目を行いました。

- 1) 点眼薬などの眼科薬剤、メスなど消耗品の寄贈
- 2) 日本人眼科医による超音波白内障手術の習得方法などの講義
- ①山崎「超音波白内障手術の準備」(Preparation for phaco surgery)
- ②横山先生「小切開硝子体手術の進歩と問題点」(MIVS-Vitrectomy changed to more silence and safety, but is it true?)
- ③小嶋先生「CCCでのトラブル対策」(Improvement of troublesome continues curvilinear capsulorrhexis)
- ④佐々木先生「紫外線による眼疾患」(UV Related Eye Disease)
- 3) 医療機器のメンテナンス、寄贈機器のセットアップと管理指導、これまでに寄贈してきた眼科医療機器の修理、点検、管理指導など(竹内護氏、竹内建司氏)
- 4) 模範手術の公開、現地眼科医への手術の直接指導(横山先生、小嶋先生)

今回は金沢医科大学、佐々木教授の「アフリカでの白内障疫学研究」の事前調査も兼ねて現地を訪問しました。今後研究面においても日本とタンザニアの眼科医たちが協力する機会が出来、より充実した交流へと発展することが期待されます。また、愛知県永田眼科クリニックで看護師兼ORTとして勤務している前田佑子さんにも参加していただき、現地看護師へ手術介助の手順などを指導してもらえた点はとても有用でした。

その他に、在タンザニア日本大使館、岡田大使のご招待により開催された大使公邸での会食会、セルー国立公園での観光サファリ(野生のライオン、ゾウ、カバ、シマウマを見ることが出来ました)など盛りだくさんな内容でした。

ムヒンビリ大学病院での白内障手術全体に占める超音波手術の割合は、我々が最初に訪れた2007年の約5%から現在の約20%へ増加しているという現地眼科医からの報告があり、我々の活動がささやかながらも現地眼科医療に貢献していることを感じました。

これからも微力ながらタンザニア眼科医療の発展に協力していくことが出来ればと考えております。

(報告者、山崎俊、GEG05212@nifty.com)



白内障手術などについての勉強会を開催(2013年9月)



横山先生による白内障手術の指導(2013年9月)



手術指導後の集合写真(2013年9月)

ヒマラヤ眼科医療を支援する会

Eye Association For The Himalayan

理事長：松山 加耶子



Eye Association For The Himalayan

我々は、2010年よりネパールの北部を中心としてアイキャンプを行っています。メンバーは関西医科大学の医師、看護師を中心として構成されています。現地ではネパール人医師、眼科助手、看護師のグループと一緒に1年に2回、12月と3月にキャンプ地を訪問し3日間の外来、手術を行っています。

元来ネパールでアイキャンプを行っていた、アジア眼科医療協力会と協力しアイキャンプを引き継いで行っていますが、近年、大学病院が中心となっている特性を生かし、他科との合同メディカルキャンプを行っています。

参加資格としては、医療関係者、そしてボランティアの方々などやる気のある方であればどなたでもご参加可能です。

私たちは、このアイキャンプを通じて、現地の眼科医療の発展、そしてネパール、日本での他科との連携ある医療を現地で実践するとともに、日々、日本で忙しく生活している中で忘れていたこともある優しい心を思い出せるような日本人にとっても有意義な団体として活動をしたいと思っています。



2013年活動報告

2013年度のネパールアイキャンプは2回5月と12月に行いました。

2013年5月ヒマラヤ山脈の広がるアンナプルナ連邦の麓マナン郡で行いました。

一つの集落は数人から数十人を少数であり豪雪地帯のため医療チームは行ったことがなく医療をうけられないという状況の場所でした。

医師 眼科3人 研修医1人 計4人、看護師 2人、ボランティア 5人の計11人にネパールチーム10人が参加しました。

3日間かけて現地に行き、3日間のキャンプを行い眼科外来359人、眼鏡処方60人、眼科白内障手術22人、チベット医による鍼灸400人超を行う事が出来、無事終了しました。

また2013年12月ルンビニ郡でアイキャンプを行い、医師 眼科6人 耳鼻科2人 計8人、看護師2人、

ボランティア 6 人の計 16 人にネパールチーム 14 人が参加しました。

また関西医科大学教授の西村哲哉先生が参加して下さりキャンプ後にはネパール人医師に硝子体手術講義を行って下さいました。

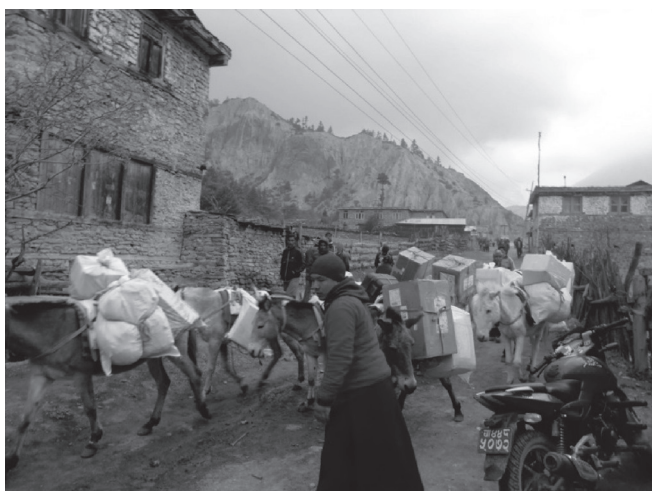
3 日間のキャンプを行い眼科外来 1500 人超え（途中で制御不能になり正式人数は後日報告がきます）、眼科手術 275 人、耳鼻科は外来は約 500 人（外来集計がまだきちんと報告来ていません）、耳鼻科手術 1 人を行う事が出来ました。今回は耳鼻科医が 2 人来て下さいましたので耳鼻科外来も昨年ほど溢れず、また手術、外来チームと分けることが出来たため、スムーズに各科診療でき、12 月キャンプは無事終了しました。

いずれも混合キャンプでしたが、眼科同様マイナー科の医療は行きとどいておらず医療の必要性を深く実感しました。そのため現在関西医科大学と相談中ですがヒマラヤ眼科耳鼻科を支援する会に改名し、耳鼻科も継続した活動も考慮しています。

今後も現地の状態を見ながら、他科と連携したキャンプを行っていきたいと思っております。



西村教授の手術を皆見学。



荷物は車ではいけない場所のため、ロバで運びます。



キャンプ地の眼前に広がるアンナプルナ連峰。
湖に反射しきれいな風景。



12 月ルンビニチーム



俳優塩谷も参加。皆でヒマラヤをバックにジャンプ

NPO 法人 ファイトフォービジョン

Fight for vision (FFV)

代表者：藤島 浩

NPO 設立当初は眼科国際医療協力の活動としてスリランカへの医療援助を開始致し、2010 年からベトナム、カンボジアにも支援を広げています。また、震災被災地への医療援助も行い、さらに海外や国内の白内障手術手技の講習会講師として FFV メンバーが派遣されており、好評につき、毎年恒例で行うことになりました。この、眼科国際医療協力会議（JICO）も 9 団体が加盟する大きな組織になりつつありますが、組織運営には FFV が中心になって働いており、藤島浩がまとめ役になっています。日本眼科医療機器協会の協力で、JICO を通じて眼科医療機器の中古機器も入手可能になってきました。様々な団体がまだ国内でも充分使える医療機器を海外に寄付して、失明予防に貢献しています。今後はさらに、JICO 内で他の団体との共同事業なども可能になると思います。また、先般の震災援助についても、海外協力を行っていることから、国内協力もスムーズに対応出来ており、今後国内外で眼科医療協力が出来ると期待しています。

活動拠点

カンボジア

ベトナム

2013 年 FFV 活動報告

本年は 11 月に村山公一と藤島が NGO アジア失明予防の会代表の服部匡志先生とともに、ベトナムを訪問し、ホーチミンから車で 3 時間ほどの僻地で白内障手術を行ってきました（写真 1）。3 日間で約 100 件の手術を行い、藤島も 10 件近くの白内障手術を行いました。核の硬さと、手術顕微鏡の見えない事などで、大分苦戦しましたが、何とか患者様や周囲の方々に感謝されて帰ってくることが出来ました。その際に株式会社 NIDEK や千寿製薬株式会社から白内障手術機器や点眼薬を寄付していただき、誠に有難かったです。この場を借りてお礼を申し上げます。服部先生は長年のベトナムでの活動に読売国際協力賞を授与され、12 月 12 日には藤島も参加しましたが、盛大なパーティーが行われました。おめでとうございます。



- 11 月 14 日 木曜日 JL759 17:55 成田発 ホーチミン行き 22:40 着
空港近くのホテルで、他の医療団体と打ち合わせ
- 11 月 15 日 金曜日 早朝レンタカーにて Binh Phuoc 省へ、
昼過ぎ到着後白内障手術準備し開始。近くのホテル宿泊
- 11 月 16 日 土曜日 1 日中 Binh Phuoc 省にて白内障手術
- 11 月 17 日 日曜日 午前中術後診察 近くのホテル宿泊
午後 Binh Phuoc 省出発し、レンタカーにてホーチミンへ
夜 JL750 23:55 ホーチミン発

一方、6 月 30 日の JICO 主催の白内障手術インストラクションコースで藤島浩が講師を、11 月 3 日臨床眼科学会インストラクションコースで藤島浩が座長を、学会での JICO 理事会を藤島浩が取りまとめ、そういった活動は恒例となった。9 月 26 日に在日コロンビア大使に招聘され、深川、村山、竹村、藤島で訪問し、今後の医療機器協力について話し合い、2014 年から手術機器などの贈与を行う予定が決まった（写真 2）。また、雑誌銀界での JICO 活動連載が始まり、巻頭言などを藤島が担当している。

NPO 法人ファイトフォービジョン（FFV） 理事長 藤島 浩

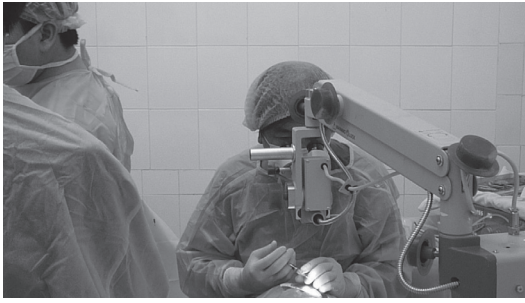


写真 1



写真 2

FFV 事業計画

1. 助成金事業の名称

- ①平成 26 年度 カンボジア眼科手術施設拡張および手術支援
- ②平成 26 年度 ベトナム眼科手術支援
- ③平成 26 年度 コロンビア眼科手術機器寄贈支援
- ④平成 26 年度 インドネシア眼科手術施設拡張および手術支援
- ⑤平成 26 年度 白内障手術講習会支援

2. 対象地域

- ① Battambang Ophthalmic Care Center, Cambodia
- ②ベトナム NGO アジア失明予防の会と同行
- ③コロンビア大使館を通じた医療機器寄贈
- ④塩田医師との Indonesia Makassar 訪問
- ⑤ JICO 主催白内障講習会への講師派遣

3. 事業実施期間

- ①平成 26 年 11 月
- ②平成 26 年 11 月
- ③平成 26 年
- ④平成 26 年 9 月
- ⑤平成 26 年 6 月

4. 派遣人員

- 藤島 浩 医師 (鶴見大学眼科)
岩下正紀 医師 (鶴見大学眼科)
深川和己 医師 (両国眼科クリニック)
村山公一 (両国眼科事務長)
楊 浩勇 医師 (スマイル眼科) を予定

5. カンボジアでは都市部であっても一般的には眼科医療および手術を受けられる環境にはない。現在までに FFV は 2 年間にわたり Battambang Ophthalmic Care Center, Cambodia および周辺地域に派遣し、実情調査を行い、Battambang Ophthalmic Care Center に対して医療機器を寄贈、さらにコロンビアには大使館経由で手術顕微鏡やレーザー、白内障超音波吸引装置を日本から寄付する。平成 25 年には現在ベトナムで活動を行っている服部先生らとも協力のうえ、現地での白内障手術援助を行った。

NPO 法人 Project Operation Sight For All (POSA)

Project Operation Sight For All (POSA)

代表者：倉富 彰秀

URL: <http://www.posaoffice.net/>

世界各地にはその経済的事情から、光のない生活を強いられている人々が大勢いることを知り、1995年にアイキャンプという形でインドの北東部にて現地眼科医と共同で個人的に主に白内障手術による眼科医療援助活動を開始しました。しかし、個人の力には限界があると認識し、より効果的な活動を目指す為1999年に POSA を設立し、同年に NPO 法人（特定非営利活動法人）POSA として認定されました。2000年より活動地をバングラディッシュへと移し NPO 法人国際エンゼル協会を現地パートナーとして活動を続けております。

POSA とは、Project Operation Sight For All（すべての人々のための視覚手術計画）の略で、その中の「for All」は、インドやバングラディッシュの人々のみならず、全世界の人々のためという意味を含め、命名致しました。

POSA では、ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST（分かちあわれない全てのものは、失われる）をモットーに掲げ、眼科医療援助活動のポリシーとして、次の2点を示しております。

- ①医師として患者様にとって最善の治療を最高の医療レベルで行う。
- ②白内障のために失明しており、しかも経済的な理由から今後白内障手術を受ける機会がないと予想される患者様を対象とする。

我々はこの団体の元でより多くの人々が分厚い眼鏡なしでも、良好な視力を得られるように眼内レンズ挿入手術を続けてまいりたいと思っております。

本法人は眼科衛生学に関する知識の普及および白内障・緑内障に対する研究、またその貧しさ故に適切な医療を受けられない人々に対するボランティア医療活動を行い、その視力回復による社会復帰と自立を促すことを通して国際交流に貢献することを目的としています。



2013 年度眼科医療援助活動報告書

活動期間：前半組 平成 25 年 12 月 19 日（木）～ 12 月 24 日（火）
 ：後半組 平成 25 年 12 月 21 日（土）～ 12 月 26 日（木）
 ：前後半組 平成 25 年 12 月 19 日（木）～ 12 月 26 日（木）

参加者：前半組 医師 2 名・視能訓練士 2 名・一般 1 名・大学生 1 名・高校生 1 名
 ：後半組 医師 1 名・一般 2 名・大学生 2 名
 ：前後半組 看護師 1 名・高校生 1 名

活動内容：スクリーニング 912 名（男性 349 名・女性 518 名・子供 45 名）
 白内障手術 103 名（男性 58 名・女性 45 名）

スクリーニング内訳

実施月	男性	女性	子供	合計
11 月（ 4 回 ）	277 名	389 名	35 名	701 名
12 月（ 2 回 ）	72 名	129 名	10 名	211 名
計（ 6 回 ）	349 名	518 名	45 名	912 名

白内障手術内訳

実施日	男性	女性	合計
12 月 21 日	25 名	12 名	37 名
12 月 22 日	16 名	5 名	21 名
12 月 23 日	17 名	28 名	45 名
計（ 3 日間 ）	58 名	45 名	103 名



ミャンマー・アイ・メディカル・サポート・チームの紹介

〒 770-0026 徳島市佐古 6 番町 6-27

代表者：藤田眼科 藤田善史

発足から現在までの経緯

1998年6月、ミャンマー協会（淡路市）の招きで日本の最新医療を見学に訪れたミャンマーのミョー・ミント保健省技官が藤田医師の『超音波白内障手術、眼内レンズ挿入手術』を淡路島で見学し、その水準の高い事に驚いてミャンマーでの手術指導を依頼した。1999年2月、高島眼科、高島玲子（淡路市）、藤田眼科、藤田善史（徳島市）らを発起人としてミャンマー・アイ・メディカル・サポート・チームが発足し、高島、藤田、北坂（ミャンマー協会）らで、ヤンゴン眼科病院を訪れ、第1回目の現地指導が実現した。その後、毎年1～2回、ヤンゴン眼科病院、マンダレー眼科病院を中心に、現地医師に超音波白内障手術の手技を指導し、眼科手術医の養成を行っている。現在までの訪問回数は23回である。

活動の目的

- ①ミャンマーにおける眼科医療水準の向上を支援する。
- ②ミャンマー眼科医を対象に、白内障、硝子体手術に関する技術指導を行う。

活動の具体的内容

- ①【ミャンマー眼科医に、白内障手術、硝子体手術教育を行う】
- ②【ミャンマー眼科医を日本に招聘し、日本の眼科医療を紹介する】
- ③【ミャンマー眼科医会と共催し、ミャンマー日本眼科手術学会（MJOSC）を開催する】
- ④【手術器械や器具、眼内レンズ、薬品などをミャンマーに寄贈し、現地の眼科医療に役立ててもらおう】
- ⑤【定期的な手術器械のメンテナンスと操作講習会を実施する】
- ⑥【特定非営利活動法人『日本ミャンマー交流協会』と共同で医療活動を行う】
- ⑦【日本の硝子体、涙道、緑内障などの専門家に依頼し、日本の眼科医療を紹介する】



第1回医療活動
藤田医師による超音波白内障手術



第17回眼科医療活動
寄贈した眼科器械、細隙灯の組み立て

2013年度 ミャンマー・アイ・メディカル・サポート・チーム活動報告

期 間：2013年3月16日 - 20日

参加者：中荻敏明（藤田眼科）、千葉征真（藤田眼科）、技術者（竹内 護、竹内健司）

活動の概要：

ヤンゴン眼科病院において4名のチームで眼科医療活動を行った。今回で23回目となる医療活動は、3例の硝子体手術と1例の白内障手術を行い、3人のミャンマー網膜硝子体医師に対しての硝子体手術指導を行った。その際、寄贈した手術用顕微鏡、超音波白内障手術装置、硝子体手術装置、眼内レーザー装置を使用し動作確認を行った。同行した医療技術スタッフにより手術用顕微鏡や新しいビデオ装置の組み立ておよび設置、超音波白内障手術装置などの点検や修理を行った。また手術用顕微鏡のカビ対策としてシリカゲルを用いたカバーで顕微鏡を覆う工夫をした。



中荻医師によるレジデントへの硝子体手術指導

実際の活動：

3月17日（日）

チョウ・ミン・ルイン医師の個人診療所を訪問した。白内障手術器機の点検、修理を行った。手術用顕微鏡のカビ対策として顕微鏡にカビ防止剤を貼り、シリカゲルを用いたカバーで顕微鏡を保存するようにした。



超音波白内障手術器機の点検・修理（ヤンゴン眼科病院）

3月18日（月）

ヤンゴン眼科病院でティンウィン教授と手術内容の打ち合わせを行った。医療技術スタッフとともに手術物品チェック、寄贈したライカ手術用顕微鏡とビデオカメラの組み立ておよび設置、ニデック社の超音波白内障手術装置（CV7000）、硝子体手術装置（Vit Enhancer）、アルコン社の眼内レーザー装置の設置や動作確認も行った。術前診察の後、今回寄贈した顕微鏡や手術器械を使用して1例の白内障手術とサン・ミント医師らとともに3例の硝子体手術を行った。



顕微鏡のカビ対策としてシリカゲルを用いたカバーを使用（ヤンゴン眼科病院）

3月19日（火）

術後診察の後、日本とミャンマーの硝子体手術の現状や今後の医療活動について意見交換をおこなった。また、医療技術スタッフによりヤンゴン眼科病院手術器機の点検・修理を行い、手術用顕微鏡のカビ対策も行った。

一般社団法人 日本眼科医療機器協会活動報告



(一社)日本眼科医療機器協会は国民の目の健康と QOL (Quality of Life) の向上のため、眼科医療現場に「より有効」で「より安全」な眼科医療機器を「より早く供給し続ける」ことで眼科医療の進歩と健全な発展を図り、社会に貢献するとことを目的に活動しております。

平成 25 年度の医療業界及び協会の出来事と活動を紹介します。

1. 平成 25 年 11 月の国会において、医療機器産業界が永年要望し続けておりました改正「薬事法」が成立し、「医薬品・医療機器等法」(正式名称：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)として医療機器に関する独立の章が設けられました。
2. 第 67 回日本臨床眼科学会のシンポジウムにおいて「産官学を TSUNAGU」と題して、三宅謙作先生(眼科三宅病院院長)・高野 繁先生(医会会長)の両座長のもと、「官」の代表として厚労省の三浦公嗣 技術総括審議官、「学」の代表として木下 茂 教授(京都府立医科大学)がご発表され、「産」を代表して当協会の瀧本会長が眼科医療機器を如何に成長産業に育てていくかについて意見を述べさせていただき、(株)ニデックの小澤社長(協会 副会長)も自社の開発関連について報告をされ、指名討論パネリストとして参加されました。



3. 「学」と「産」が一体となった活動であります「日本眼科啓発会議」（学会・医会・眼科関連業界団体）も5年を経過し、2期目の主要活動であります医学生・研修医を対象とした眼科入局希望者を増やすための「眼科サマーキャンプ2014」は今年で3回目の開催となります。この活動は業界にとっても重要な課題のひとつと考えており、協会としても積極的に協力をさせて頂きたいと思っております。

4. 日本で36年振りの開催となりますWOC 2014 TOKYOでは、本学会より学術併設展示会運営を受託し、国内はもとより世界の眼科医療関連企業への出展募集からブースレイアウト、様々なイベントの企画等、企画委員会を中心に学会本部と連携し準備を進めてまいります。

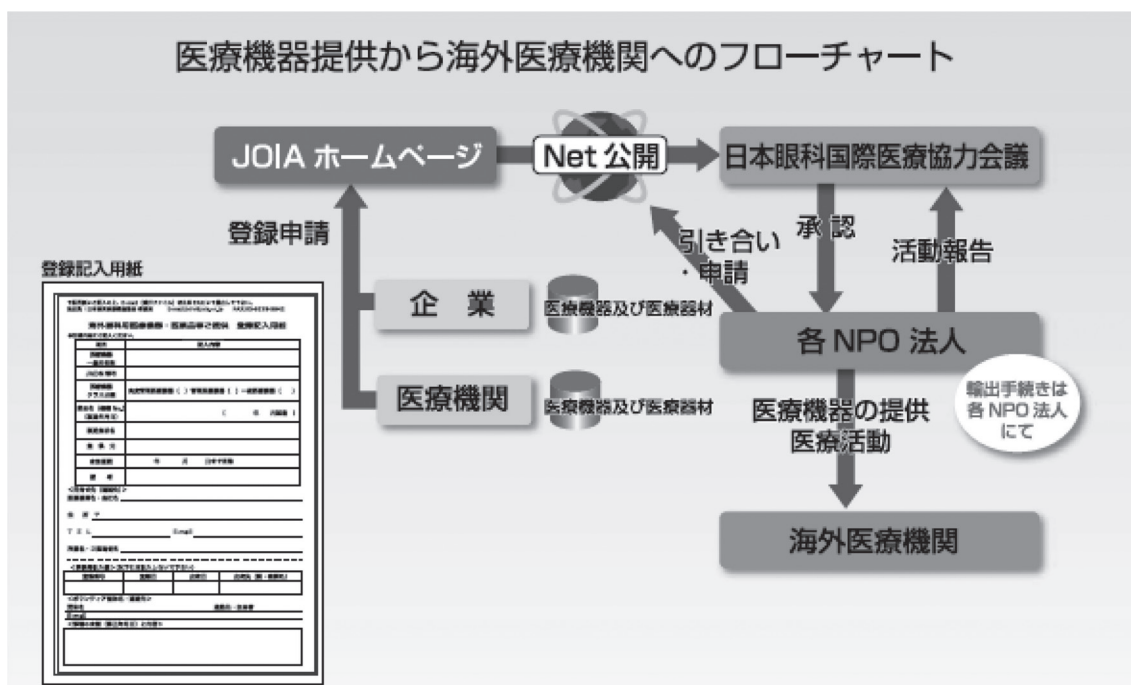
5. 眼科国際ボランティアの支援活動

委員会活動組織として眼科国際ボランティア支援委員会を設け、日本眼科国際医療協力会議の海外活動支援を行うために、協会ホームページに眼科国際医療ボランティアの紹介情報コミュニティーを開設し各NPO団体の活動を紹介しております。2012年には英文ホームページを開設致しました。

また、第67回日本臨床眼科学会の展示会場にて、機器データバンクにより会員企業から機器の提供募集を行い、海外ボランティア活動へ提供させて頂く為のシステムをパネル等にてご紹介させて頂きました。

尚、本活動につきましては、当協会のホームページ「眼科国際医療機器ボランティアのページ」に掲載しております。ご参照頂きご協力賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

当協会は、今後も、かけがえのない大切な人々の目を守るために会員企業と共に日々の事業活動を通じて、眼科医療機器の開発・製造・提供にたゆまぬ努力を続けてまいります。



第 67 回日本臨床眼科学会時紹介パネル

一般社団法人 日本眼科医療機器協会
 〒 102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-2 九段ビル 9F
 Tel 03-5276-9841 http://www.joia.or.jp

寄付金募集要項

本国際医療協力事業計画に関わる、経費ならびに運営費は本来ならば自己資金ならびに会費で賄うべきものですが、これらだけでも限度があり、経費の相当額は諸団体及び緒会社からのご支援に頼らざるを得ませんので何卒ご協力頂けましたら幸いです。

1 日本眼科国際医療協力会議代表者

理事長 藤島 浩

2 寄付金の使途

日本眼科国際医療協力会議を推進する費用
ならびに事務局運営費

3 寄付金申込先

別紙協賛金申込書を下記あてへ郵送または FAX にてお送りくださいますようお願い致します。
領収書を発行致します。

日本眼科医療国際協力会議 事務局

(担当: 竹村 知佐子)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-4-7 TEL: 03-5287-3801 FAX: 03-5287-3802

4 寄付金の払込先

銀行名: 三井住友銀行

支店: 高田馬場

普通預金 口座番号: 4468166

口座名義: 日本眼科国際医療協力会議

5 本件に関する問合せ先

日本眼科医療国際協力会議 事務局

(担当: 竹村 知佐子)

E-mail: ct01-srt@kt.rim.or.jp